

能登半島地震・内灘町社会福祉協議会災害ボランティアセンター関連写真



災害ボランティアセンター(VC)スタッフのボランティア防災士(後方こちら向き)から作業内容のマッチングと注意事項の説明を受けるボランティアの皆さん(2月9日、内灘町社協VCで)



資機材置き場から作業用具を軽トラックに積み込み、ワゴン車(左)で現地へ向かう(2月9日、内灘町社協VC前で)



奥能登の震源域から約100km 離れた内灘町を襲った「側方流動」液状化現象。家の床下を右から左へ、地中の砂層が流れ、地表へ噴出し、土台ごと持ち上げた(2月9日、内灘町で)



ボールペン(黄色矢印)の長さ約15cm。元は水平な路面が続いていたが、約60cmの段差が生じ、車の出入りが不可能になった(2月9日、内灘町で)



「側方流動」現象のため、液状化した砂層の圧力に押し倒されたコンクリート擁壁(ようへき)。元の姿は、水平、垂直だった。余震による倒壊が懸念される擁壁や民家が内灘町北部で多発している(2月9日、内灘町で)